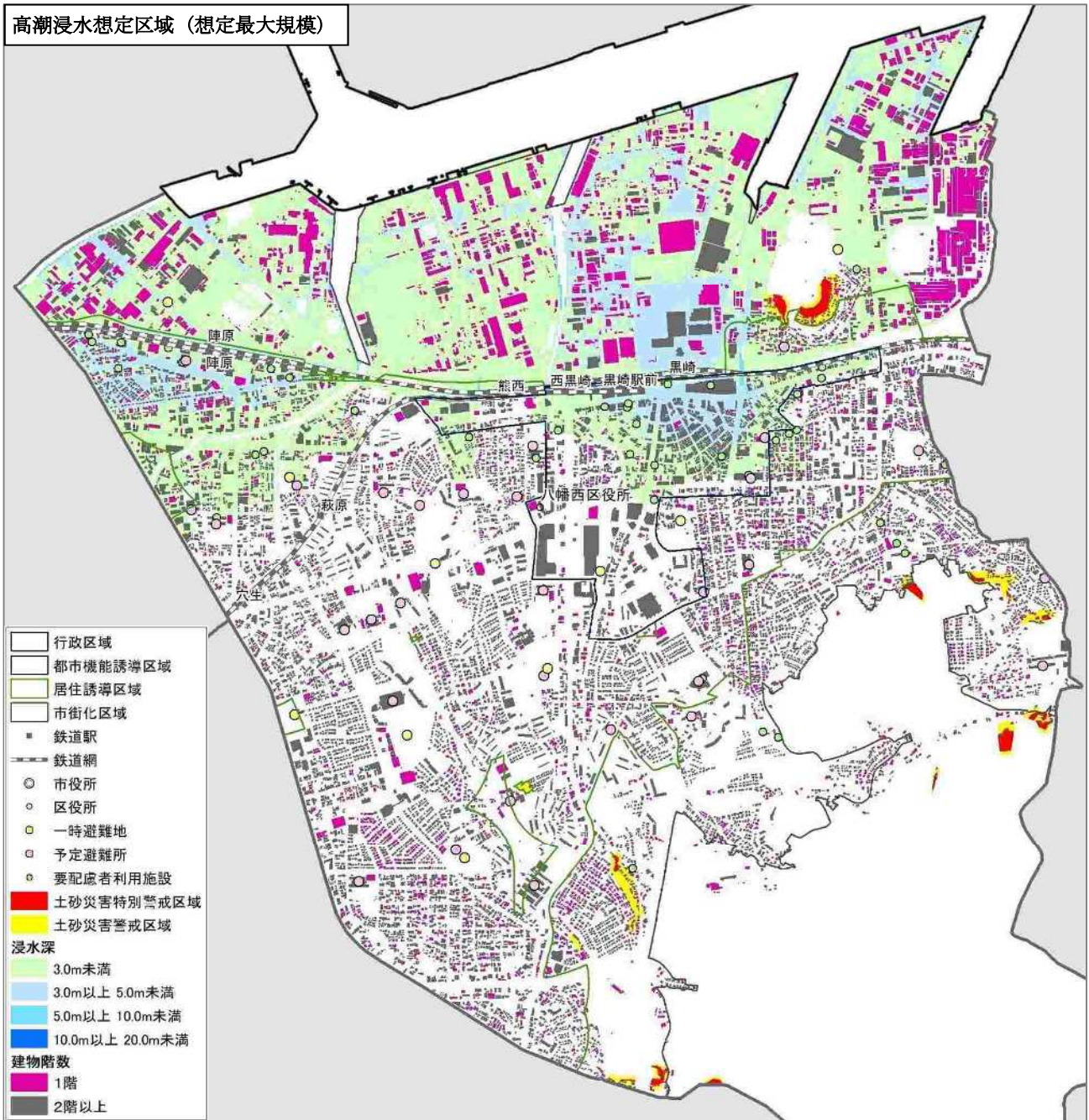


9) 八幡西（東部）（主要な想定災害：高潮）

- 本エリアは「副都心」に位置付けられており、商業、医療、福祉、交通拠点など多様な都市機能が集積しています。
- 高潮浸水想定区域（想定最大規模）には、建物が約2,100棟存在します。浸水深3m以上の建物は約300棟存在し、垂直避難が困難な場合は水平避難が求められます。
- 想定最大規模の高潮浸水に対応可能な予定避難所（災害時に避難が可能な施設）は25カ所あり、うち居住誘導区域内では22カ所あります。
- 要配慮者利用施設は約60棟あり、うち約40棟の浸水が想定されています。

	エリア内				居住誘導区域内			
	全 施設数	適応災害種別(施設数)			全 施設数	適応災害種別(施設数)		
		洪水 土砂	高潮	津波		洪水 土砂	高潮	津波
一時避難地	22	21	19	21	18	18	17	18
予定避難所	30	30	25	27	27	27	22	25

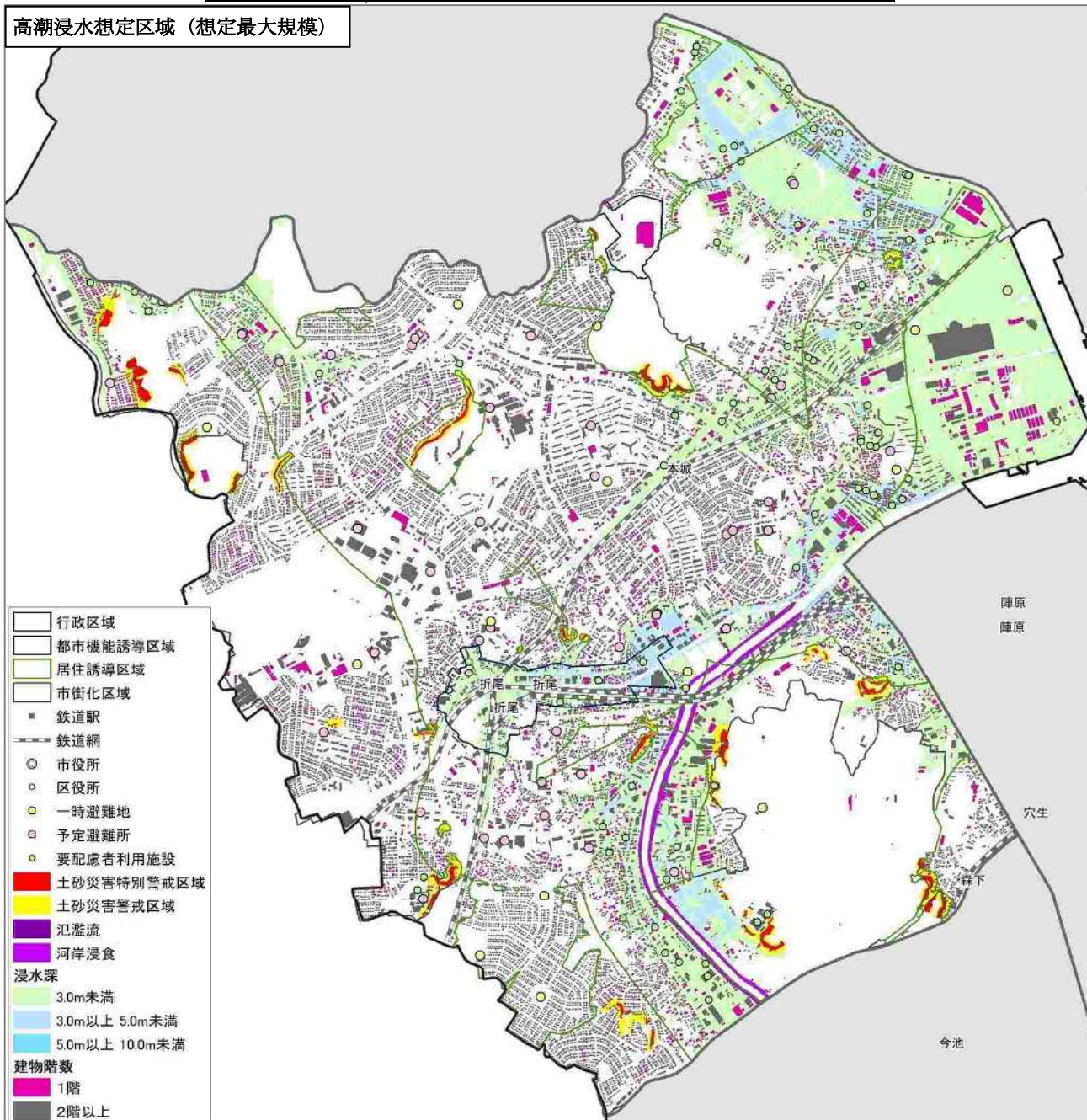




10) 八幡西(北部) (主要な想定災害: 高潮)

- 本エリアは「地域拠点」に位置付けられており、南北に二級河川の金山川が流れています。
- 高潮浸水想定区域(想定最大規模)には、建物が約4,600棟存在します。浸水深3.0m以上の建物は約700棟あり、垂直避難が困難な場合は水平避難が求められます。
- 金山川の河岸侵食による、家屋倒壊等氾濫想定区域の建物は約60棟です。また氾濫流に該当する木造建物はありません。
- 想定最大規模の高潮浸水に対応可能な予定避難所(災害時に避難が可能な施設)は30カ所あり、うち居住誘導区域内では26カ所あります。
- 要配慮者利用施設は約100棟あり、うち約80棟の浸水が想定されています。

	エリア内				居住誘導区域内			
	全 施設数	適応災害種別(施設数)			全 施設数	適応災害種別(施設数)		
		洪水 土砂	高潮	津波		洪水 土砂	高潮	津波
一時避難地	26	22	19	26	18	17	15	18
予定避難所	39	35	30	31	32	29	26	25

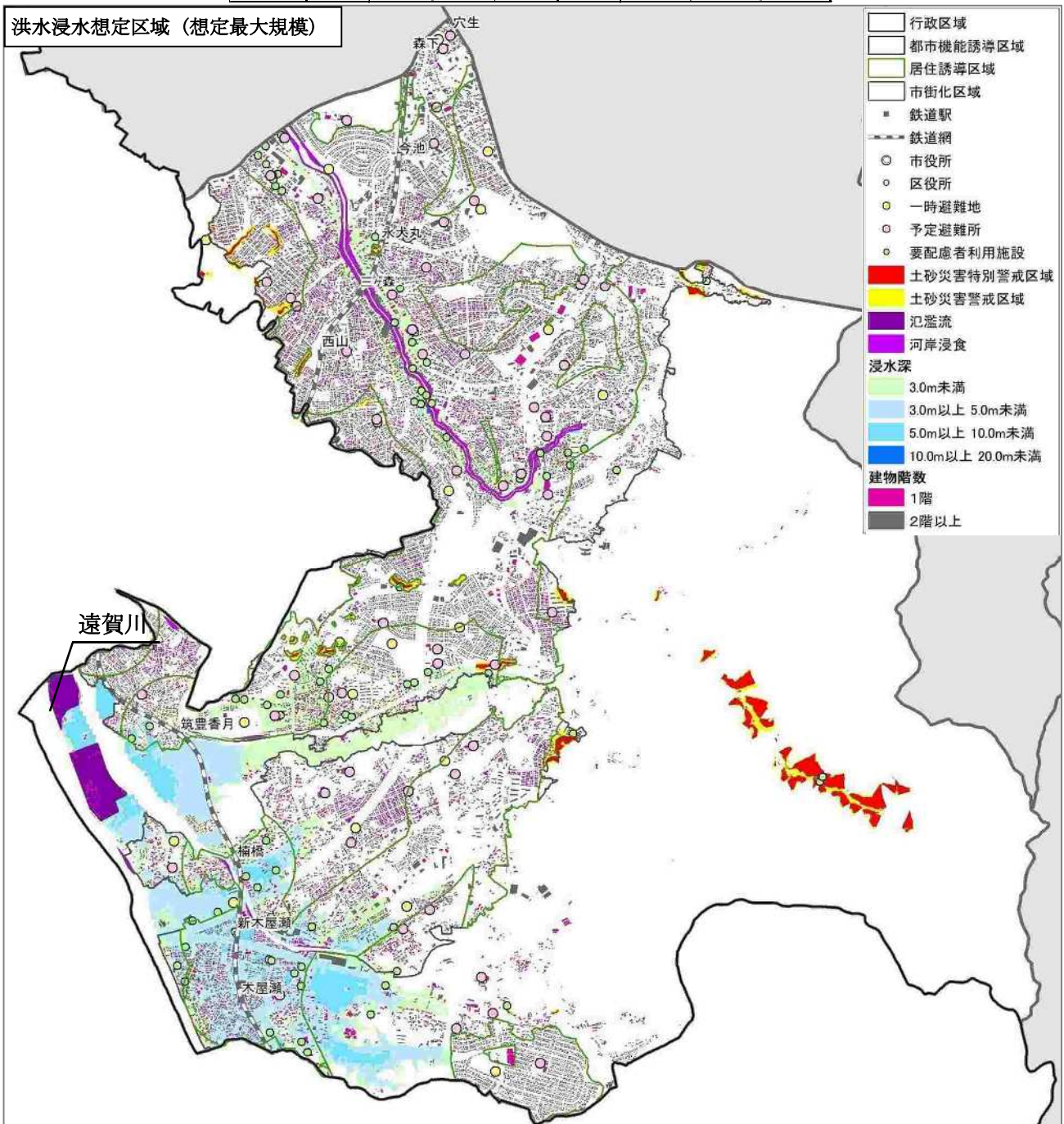




11) 八幡西(南部) (主要な想定災害: 洪水)

- 本エリアの西側には、一級河川である遠賀川が存在します。
- 洪水浸水想定区域(想定最大規模)には、建物が約4,500棟存在します。浸水深3.0m以上の建物は約1,700棟あり、垂直避難が困難な場合は水平避難が求められます。
- 遠賀川と金山川の河岸侵食による、家屋倒壊等氾濫想定区域の建物は約300棟あります。また氾濫流に該当する木造建物はありません。
- 想定最大規模の洪水浸水に対応可能な予定避難所(災害時に避難が可能な施設)は51カ所あり、うち居住誘導区域内では32カ所あります。
- 要配慮者利用施設は約100棟あり、うち約70棟の浸水が想定されています。

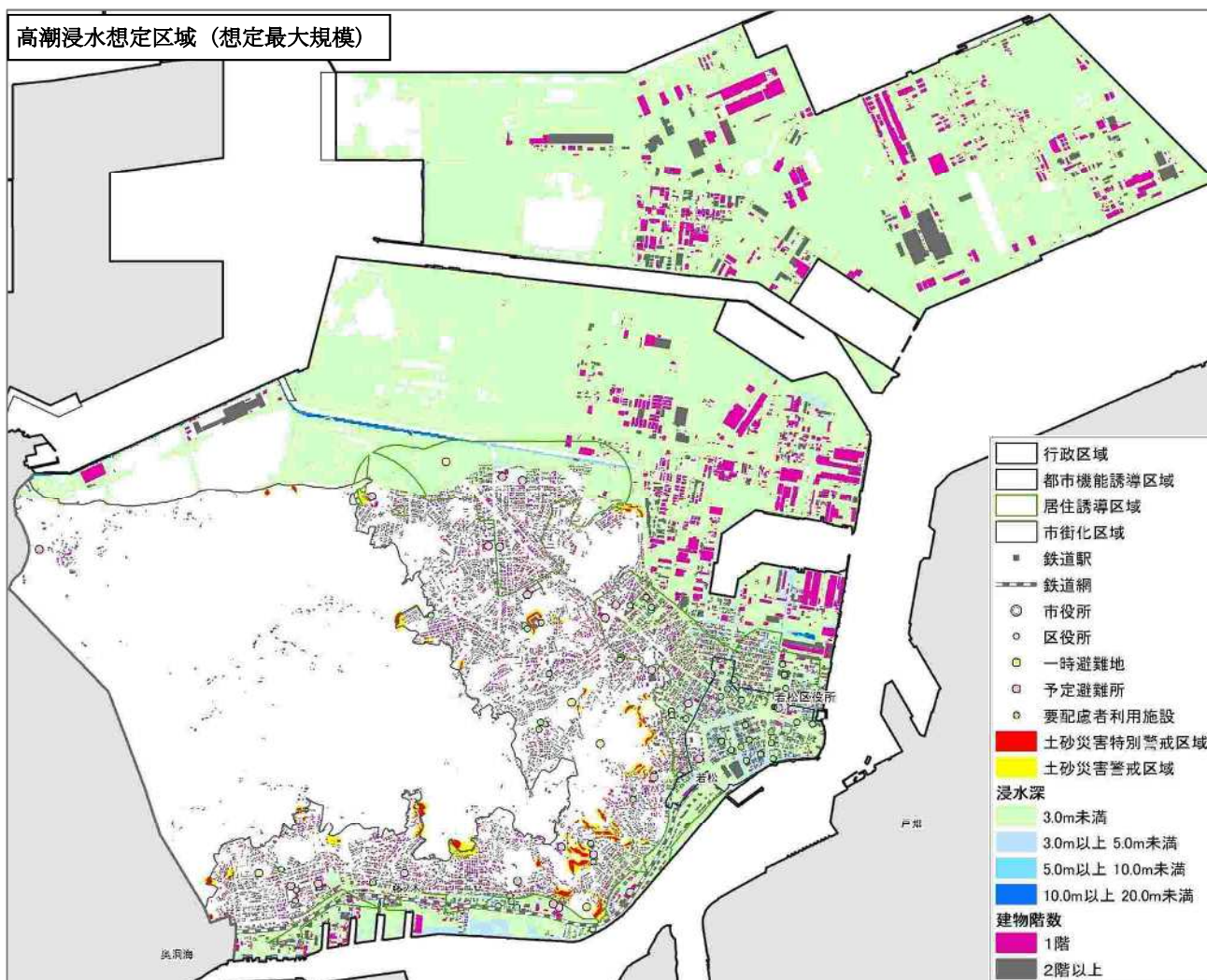
	エリア内				居住誘導区域内			
	全 施設数	適応災害種別(施設数)			全 施設数	適応災害種別(施設数)		
		洪水 土砂	高潮	津波		洪水 土砂	高潮	津波
一時避難地	42	35	39	42	28	23	26	28
予定避難所	59	51	56	47	38	32	35	30



1 2) 若松（東部） （主要な想定災害：高潮）

- 本エリアは「地域拠点」に位置付けられており、北部には工業地帯があり、南側は洞海湾に面し、豊かな自然が広がっています。
- 高潮浸水想定区域（想定最大規模）には、建物が約3,700棟存在します。浸水深3.0m以上の建物は約300棟あり、垂直避難が困難な場合は水平避難が求められます。
- 想定最大規模の高潮浸水に対応可能な予定避難所（災害時に避難が可能な施設）は21カ所あり、うち居住誘導区域内では9カ所あります。
- 要配慮者利用施設は約50棟あり、うち約20棟の浸水が想定されています。

	エリア内				居住誘導区域内			
	全 施設数	適応災害種別(施設数)			全 施設数	適応災害種別(施設数)		
		洪水 土砂	高潮	津波		洪水 土砂	高潮	津波
一時避難地	17	16	16	17	8	8	8	8
予定避難所	24	21	21	21	10	10	9	10



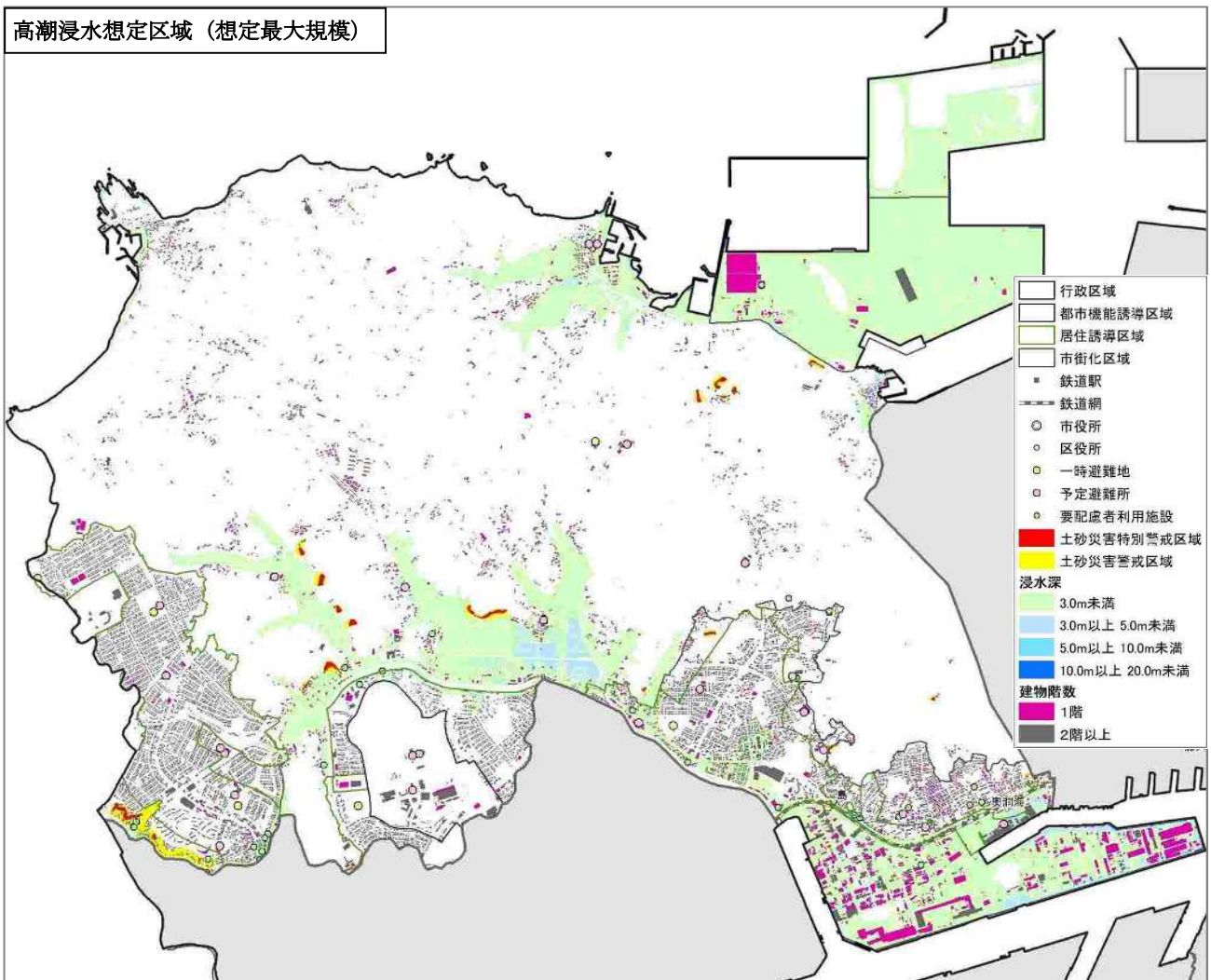


13) 若松（西部）（主要な想定災害：高潮）

- 本エリアは「地域拠点」に位置付けられており、響灘緑地など自然豊かな地区や教育・研究機関が集積しています。
- 高潮による浸水想定区域には、建物が約900棟存在しますが、浸水深3.0m以上の建物は約30棟あり、垂直避難が困難な場合は水平避難が求められます。
- 想定最大規模の高潮浸水に対応可能な予定避難所（災害時に避難が可能な施設）は19カ所あり、うち居住誘導区域内では9カ所あります。
- 要配慮者利用施設は70棟あり、うち約50棟の浸水が想定されています。

	エリア内				居住誘導区域内			
	全 施設数	適応災害種別(施設数)			全 施設数	適応災害種別(施設数)		
		洪水 土砂	高潮	津波		洪水 土砂	高潮	津波
一時避難地	12	5	11	12	4	2	3	4
予定避難所	21	16	19	18	11	10	9	10

高潮浸水想定区域（想定最大規模）



(5) リスク分析を踏まえた防災上の課題（市内全域）

前項までのリスク分析を踏まえ、防災・減災のまちづくりに向けた課題を整理します。

【リスク分析を踏まえた防災上の課題】

分類	防災上の課題
土砂	<p><b>【土砂災害特別警戒区域等の指定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の斜面地に土砂災害特別警戒区域等が広範囲に点在して指定されており、災害発生時の人的被害が懸念されるため、リスクの回避や避難体制の充実等によるリスクの低減が求められます。</li> </ul>
津波	<p><b>【津波浸水の想定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小倉南区の沿岸部一部と門司区一部では、津波による浸水が想定されており、避難体制の充実等によるリスクの低減が求められます。</li> </ul>
洪水	<p><b>【遠賀川の浸水想定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八幡西区の遠賀川流域で、深い浸水が想定されています。公共交通機関の機能不全が懸念されるため、河川整備や避難体制の充実等によるリスクの低減が求められます。また、家屋倒壊等氾濫想定区域として、河岸侵食が想定されているため、同様にリスクの低減が求められます。</li> </ul> <p><b>【紫川による広域な浸水想定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小倉北区から小倉南区の紫川流域で、広範囲に浸水が想定されています。小倉駅でも浸水が想定されていることから公共交通機関の機能不全が懸念されるため、河川整備や避難体制の充実等によるリスクの低減が求められます。また、家屋倒壊等氾濫想定区域として、氾濫流と河岸侵食が想定されているため、同様にリスクの低減が求められます。</li> </ul> <p><b>【竹馬川の浸水想定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小倉南区の竹馬川流域で、浸水が想定されています。公共交通機関の機能不全が懸念されるため、河川整備や避難体制の充実等によるリスクの低減が求められます。また、家屋倒壊等氾濫想定区域として、河岸侵食が想定されているため、同様にリスクの低減が求められます。</li> </ul> <p><b>【板櫃川の浸水想定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小倉北区から八幡東区の板櫃川流域で、浸水が想定されています。河川整備や避難体制の充実等によるリスクの低減が求められます。また、家屋倒壊等氾濫想定区域として、氾濫流と河岸侵食が想定されているため、同様にリスクの低減が求められます。</li> </ul> <p><b>【金山川の浸水想定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・八幡西区の金山川流域で、浸水が想定されています。公共交通機関が河川を横断し、機能不全が懸念されるため、河川整備や避難体制の充実等によるリスクの低減が求められます。また、家屋倒壊等氾濫想定区域として、氾濫流と河岸侵食が想定されているため、同様にリスクの低減が求められます。</li> </ul>
高潮	<p><b>【海岸沿い・湾岸の高潮による浸水想定】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周防灘沿岸周辺の小倉南区と門司区では、水位の高い浸水が想定されています。公共交通機関の機能不全が懸念されます。</li> <li>・小倉北区の中心部や洞海湾沿岸で浸水が想定されています。都心・副都心の小倉駅、黒崎駅が含まれているため、影響規模の大きい公共交通機関の機能不全が懸念されます。</li> </ul> <p>以上より、避難体制の充実等により、交通機関が機能不全となる前に避難を促すなどのリスクの低減が求められます。</p>
地震	<p><b>【本市に影響のある活断層】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡県の地震に関する防災アセスメント調査報告書では、本市に影響のある活断層による地震の想定震度分布は全域に及ぶと予測されており、本市でもインフラ施設や建築物の耐震化、避難体制の充実等によるリスクの低減が求められます。</li> </ul>